

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／強田美央

国内外のキャンパスを 活用した回遊型教育で 学生の流動性を高める

東海大学
学長
山田清志



あ

まり知られてはいませんが、本学における教員一人あたりの学生数はおよそ18人。国立大学や一部の私大を除き、主な大規模大学における数字が20〜40人ほどであることを考えると、教員と学生とが緊密にふれ合える条件は整っているといえます。こうした人的資源を最大限活用し、大規模大学でありながら、小さな大学で行うようなきめ細やかな教育を実現していくつもりです。

同時に、23学部62学科・専攻を擁し、国内外に多数のキャンパス・校舎（札幌、東京、湘南、伊勢原、静岡、熊本、ハワイ）を有するスケールメリットも活かしていきます。その第一歩が、キャンパスに縛られることなく学べる回遊型教育プロ

グラムの構築です。例えば生物分野においては、札幌にある生物学部、静岡にある海洋学部、熊本にある農学部は関連した教育領域をもつわけで、密接に連携することで教育の幅を広げることが可能です。これまでは必修科目の関係で、学生が所属学部のあるキャンパスを離れにくい現実がありました。遠隔で授業に出席することも容易になり、靴一つ持って各地を巡りながら学べるようになってきました。「日本まるごと学びの場」という趣旨の下、学生の流動性を高めていく。慣れ親しんだ場所とは違う環境に身を置き、異なる価値観をもつ人々と出会うことで大いに刺激を受けることでしょうか。

2022年度には学部学科の再編を

【学長プロフィール】やまだ・きよし●1955年生まれ。早稲田大学法学部卒業。東北大学大学院情報科学研究科単位取得満期退学。ハワイ東海インターナショナルカレッジ学長、東海大学教養学部生活学科助教授などを経て、2004年同学部人間学科教授。副学長などを経て2014年より現職。専門は経済法、消費者法など。

【大学プロフィール】1942年学園創立。東京キャンパス（高輪校舎、渋谷校舎）、湘南キャンパス（湘南校舎、伊勢原校舎）、静岡キャンパス清水校舎、熊本キャンパス熊本校舎、札幌キャンパス札幌校舎に、23学部62学科・専攻を擁する。

行い、政治経済学部、国際学部、経営学部、観光学部の社会科学系4学部および情報通信学部の各3・4年次を東京キャンパスに集約しました。湘南キャンパスでの基礎教育を経て、グローバル社会の最前線を学びの場とします。

その湘南キャンパスがある東海大学前駅の朝のホームは、一限に急ぐ学生であふれています。しかしどんなに出口へ向かう上り階段が混んでいても、空いている下り側を逆走する学生はいません。そんな日常風景にも、本学の学生気質ともいえる「良き市民」が表れています。そうした美德はそのままに、今後はガッツや覇気を加えたい。生き馬の目を抜く国際社会において、強さも兼ね備えてほしいのです。私はよく、カザフスタンから来た国費留学生の話をしつづけます。控えめで礼儀正しい学生でしたが、闘志を内に秘めていました。後に私がカザフスタンの大統領府を訪れた際、彼が案内役を務めてくれたのですが、「ここが副大統領の部屋、こちらが官房長官の部屋です」という言葉に続き、「少なくとも僕は将来、この部屋まではたどりつくつもりです」と真顔で話していました。こうした逞しさを日本人学生ももってほしい。そのためにはやはり、多様性なので採まれる必要があると考えます。